

神奈川県事例紹介 ―神奈川県における被害対策の取組とサル管理―

神奈川県自然環境保全課 坂口裕佳（平塚駐在事務所）

永井広野（野生生物グループ）

1. 神奈川県のニホンザル保護管理

農作物被害の軽減及び生活被害・人身被害の根絶による人とニホンザルの共存を目指すとともに、長期的な観点からニホンザル地域個体群の安定的な存続を図ることを目的として、平成15年3月に「神奈川県ニホンザル保護管理計画」を策定し、各種事業を実施してきた。また、県内に生息するすべての群れに電波発信器を装着し、群れごとの行動域や性年齢構成等のモニタリング調査を継続して行ってきた。

これまでの取組により、県内に生息する3つの地域個体群は維持され、群れ数及び個体数の大幅な増加は抑制されているが、農作物被害が減少する傾向は認められず、生活被害及び人身被害は増加傾向にある。このような状況に対応するため、平成29年3月に「第4次神奈川県ニホンザル管理計画」を策定した。モニタリング調査に基づく計画の運用の実態について紹介する。

2. かながわ鳥獣被害対策支援センターの取組

鳥獣被害対策は、集落環境整備、防護対策及び捕獲の3つの基本対策を、地域が一体となって取り組む「地域ぐるみの対策」が効果的である。

こうした取組を広げていくため、県は、地域県政総合センター単位で実施していた支援を集約して、高い専門性を持つ「かながわ鳥獣被害対策支援センター（以下、支援センター）」を平成29年度に設置した。

支援センターは、市町村や関係機関と連携して効果的な対策の提案、技術支援、効果検証などの支援を行っており、その活動内容を紹介する。